



令和2（2020）年度 第11期 とちぎの教育未来塾

第1日〔令和2（2020）年10月3日（土）〕

第11期生 133名



開講式・オリエンテーション

◆開講あいさつ 総合教育センター所長 大島 政春

全3日の日程で行われる本年度の第11期「とちぎの教育未来塾」がスタートしました。今年度の開講式は、新型コロナウイルス感染防止の対応から、7会場で Zoom を使用して行いました。開講あいさつでは、未来塾の目的・特徴や有意義な研修にするための心構えについて話がありました。

選択講座 A ・ 選択講座 B

今年度は、受講者全員が集合して研究協議等を行う研修会場の確保が困難なことから、少人数選択講座制をとり、各講座を実施しました。選択講座は、下記の通りです。各講座では、演習を通して子どもたちの気持ちを感じたり、これからの指導について考えたりしました。各会場とも、受講者同士、時には講師を交えて、熱心に語り合う姿が見られました。

選択講座 A

- ・「児童・生徒指導～いつでも、どこでも、だれにでも～」(小・中)
- ・「生徒指導はすべての子どものために」(高)
- ・「子どもが輝く学級経営」(小・中)
- ・「HR 経営ってなあに」(高)
- ・「子どもとのかかわり」
- ・「学習指導のいま」

選択講座 B

- ・「学びの基礎を培う幼児教育」
- ・「特別支援教育の理解」
- ・「心を育む道徳教育」
- ・「小学校におけるプログラミング教育」
- ・「学校と地域で拓く未来」





受講後のアンケートから

【現職】

- ◆自分が行ってきた生徒指導が、本当に子どもの育成につながっているか不安がありました。講座を通して生徒指導について深く考えることができ、日々の指導が、目には見えなくても生徒の成長につながっていることを感じることができました。
- ◆子どもが未来の社会を創造するために必要な力を身に付けさせることが、教員の仕事であり、使命であると感じました。月曜日から、また真っ直ぐに生徒と向き合っていこうと思いを強くすることができました。
- ◆高校の教員も「道徳の授業を受けた生徒を受け持つことになる」という言葉に、はっとさせられました。道徳の授業で大切な「中心発問」と「その時の子どもの反応を想像する」ということは、学校教育のどの場面でも生かせると思いました。
- ◆学校・地域・保護者が連携することで、子どもたちにより豊かな学びを与えられることを実感し、今後は様々な「つながり」を大切にしていきたいと思いました。また、大学生から、自分にはなかった考えを得ることができ、今後の教育活動を豊かにするヒントを得ることができました。

【学生等】

- ◆子どもと関わった経験が少ないため、現職の先生との話合いや講義からは、たくさん学ぶことができました。様々な学級経営のアイデアを知ること、自分だったらどのような学級経営ができるだろうと考えることができ、学級をもつことが楽しみになりました。
- ◆「キャリア教育」が、就学前から始まっていることを理解できました。教師の言葉、周囲の言葉の一つ一つが重要であることを実感し、子どもたちの背中を押せる教師になりたいと思いました。
- ◆演習が多くあり、楽しく学ぶことができました。演習の際に、「もっとこうしたらいいかな。」「この聞き方がいいかな。」と考えることができ、とても実りの多い時間でした。この講座で初めて学んだ言葉もあり、心に留めて教育相談にのぞみたいと思いました。
- ◆大学の授業でスクラッチを学んだ経験はあったが、実際の授業でどう生かすのかを知る貴重な機会となりました。プログラミングによって物事を分かりやすくできるということを体験を通して実感することができました。